

# 多摩デポ通信 第41号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2017年1月25日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail [depo\\_tama@yahoo.co.jp](mailto:depo_tama@yahoo.co.jp)

新都立多摩図書館に  
期待するもの

理事長 座間直壯

皆様、新年を健やかにお迎え  
いただいたこととお喜び  
申し上げます。多摩デポは今  
年10年目を迎えます。これま  
で多摩地域に共同保存図書  
館の実現を目指して様々な  
活動を続けてきました。

2014年10月に(株)カ  
ーリルと共同研究の協定を  
締結し、昨年3月に研究成果  
を携えて中間報告会を行いま  
しました。その後多くの方々の  
ご指摘をいただきながら改  
良を加え、かなりの精度が期

待できるようにになりました。  
多摩デポの当初の目標の共  
同保存図書館の実現には遠  
く及びませんが、バーチャ  
ル・デポとして各図書館の中  
で着実に共同保存の芽が出  
始めた実感を味わうことが  
できた昨年でした。

今年、都立多摩図書館の  
新館が1月29日に開館し、新  
たな都立図書館のサービス  
が始まります。多摩デポは共  
同保存図書館の仕組みづく  
りに関連して、これまで何度  
か都立図書館に対して提  
案・要望などを重ねてしまし  
たが、あらためてこの機会に  
新開館の図書館へ期待を込  
めて共同保存図書館の実現

第28回 多摩デポ講座

## 『国立国会図書館の蔵書デジタル化計画と まちの図書館、読書の未来パート2』

講師：徳原 直子氏

(国立国会図書館電子情報部電子情報企画課)

2月3日(火) 午後6時45分～8時30分

国分寺労政会館 3階第3会議室 JR国分寺駅・南口 徒歩5分

参加費：無料

会員でなくても参加いただけます

4年前始まった「図書館向けデジタル化資料送信サービス」による絶版等資料の提供は、現在、全国の図書館にどこまで普及しているでしょう。

昨年11月に開催した講座のパート2として、前回とても明解に語ってもらい、好評だった講師に再度来ていただき、国立国会デジタル化の現状や見通しを伺います。

開かれる可能性を知り、今後も市町村や都立の図書館に期待すべきこと、現物保存の意味、私たちの将来の読書の姿などについて考えてみませんか。

徳原氏による、詳細な前回配布資料をホームページで公開中。

に向けた具体的な提案をしたいと思います。

この背景には、多摩地域のほとんどの図書館が開館から40年以上が経過し、蔵書の増加に伴い保存スペースの確保が課題となり、更なるサービスを展開していく上で新たな仕組みが必要となっていることがあります。東京都市町村立図書館長協議会（以下「館長会」という）では、2006年に「共同利用図書館」の設置に向けた提案（注1）がされ、2008年には「共同利用図書館検討調査」の報告書（注2）をまとめ、2015年に発表された共同利用図書館プロジェクトチームの報告（注3）では、多摩地域の各図書館の資料収容能力は限界状態にあることを示しています。

多摩デポは、これまで多摩デポ講座を継続的に開催し、資料保存に関連する様々な課題について参加者とともに議論を重ねてきました。図

書館の基本的機能は資料の提供であり、求める資料を手段を尽くして利用者に提供することが求められます。その備えとして共同保存図書館を実現させることが最も効率的で有効な方法であることが館長会による調査報告や多摩デポ講座による学習の結果からより鮮明に浮かび上がってきました。

そこで、新都立多摩図書館への提案ですが、市町村立図書館と連携した共同保存図書館を全国に先駆けてつくることが切望します。これまでも多摩デポでは各自治体で除籍対象となった資料のうち多摩地域の図書館全体で最後の2冊1冊となつていくことが確認されたものは当面その所蔵する図書館で保存する方向で資料の共同保存のしくみ作りを模索してきました。今回新たに開館する都立多摩図書館で実像としての共同保存図書館の

構築を実現させていただきたいと願っています。

共同保存の資料の中には、都立では所蔵していない資料もあり、都立図書館としての所蔵資料にも幅が出ることで、全体的な蔵書の充実が図られることが考えられ、資料提供サービスの拡大に繋がると考えます。

文部科学省が発表した「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（2012年12月）では都道府県立図書館の域内の図書館への支援として、「当該都道府県内の図書館の求めに応じて、それらの図書館への支援に努めるものとする。」とあり、次の事項が列記されています。「ア、資料の紹介、提供に関すること。イ、情報サービスの関係すること。ウ、図書館資料の保存に関すること。エ、郷土資料及び地方行政資料の電子化に関すること、オ、図書館の職員の研修に関すること。カ、その他図書館の運営に関

すること。」。このことから都立図書館にとつて、域内の図書館との連携・協力は必然的な機能と考えられます。また都道府県の広域行政の視点からも、市町村間だけでは連携が不十分であるのを、相互のネットワークを充実させ、資料の相互貸借や職員研修、共同資料保存事業を行う要としての都立図書館の存在・役割は大変重要なものだと言えます。

新都立多摩図書館の規模は占有延べ床面積で倍以上拡大され、蔵書収容容量で約2.8倍の280万冊収容可能な規模となります。現在の所蔵数は、図書が約51万冊、新聞・雑誌約18000タイトル（平成28年度版事業概要より）となっています。もち



ろんこの機会に他施設に保存していた資料や都立中央から移管の資料があるなど、都の計画もあることは予測できますが、そこに共同保存機能を付加することで、さらに充実した図書館サービスが出来ることと思います。

都立図書館の重点目標（平成27年から29年まで）に、「これからの都立図書館に期待される利用者ニーズを的確に捉えるとともに、都立図書館の運営及びサービスの現状（「東京都立図書館運営方針」）に改めて目を向け、より一層活用される図書館に向けた中長期的な館運営の方向を明らかにする。短期的に取り組むべき課題については迅速に対応する。」とあります。この重点目標にあるように、都立図書館への期待を的確に捉えるならば、市町村立図書館の長年の要望である、多摩地域で最後の2冊本を確実に保存し、都立図書館を含めた東京都全域を

対象とした資料保存の最強システムが誕生することになると考えられます。また、「新多摩図書館の開館により、都立図書館（中央図書館・多摩図書館）総体として一層の機能向上を図る。」とあります。これまでなかった市町村と連携した共同保存という新たな機能を備えることでまさに一層の効果が期待できると思います。

最後に、NPO法人としてこれまでいろいろな場面で資料保存に関する学習を重ね、ノウハウを蓄積してきました。都立多摩図書館における共同保存図書館の構築に当たって、多摩デポは最大限の支援・協力を惜しまない覚悟しております。求める利用者の期待に応え、多摩地域の図書館活動の更なる発展のために、全国初の共同保存図書館の実現を期待します。



第29回 多摩デポ講座

## 『新・都立多摩図書館 バックヤードツアー』

3月6日(月) 午後2時～3時

都立多摩図書館入口前に

午後1時50分集合

住所：国分寺市泉町2-2-26

JR西国分寺駅下車 南東へ7分

皆さん一緒に、都立図書館の内側を見に行きましょう。

「多摩デポ」として申し込んであり、都立職員の方が案内してくれます。

会員でなくても参加できます。  
誘いあってどうぞ！

(注1)  
『多摩地域「共同利用図書館」の設置に向けてーNPOによる共同出資事業化の提案』  
2006(平成18)年2月 東京都市町村立図書館長協議会  
除籍資料再活用プロジェクト  
(注2)  
『多摩地域における共同利用図書館検討調査報告書』

2008(平成20)年3月 東京都市町村立図書館長協議会  
(注3)  
『共同利用図書館プロジェクトチーム調査報告書』  
2015(平成27)年10月 東京都市町村立図書館長協議会

都立多摩図書館は1月29日(日)に開館し、当日は、午前、午後にも、また、2/4(土)、2/18(土)2/28(火)、3/27(月)にも館主催のバックヤードツアーが予定されているようです。

「多摩デポ」で申し込んである日に来られない方は、これらの日でも、バックを見学してください!

## 第28回多摩デポ講座 2月3日に行ないます! こちらを忘れずに

国立国会図書館は、蔵書のデジタル化とデジタルデータの利用・活用について、目覚ましいテンポで事業をすすめてきました。著作権の切れた資料については、デジタル画像を国立国会図書館ホ

ームページで公開されるようになりまし。また(著作権は切れていないが)絶版等で入手が困難な資料については、全国の図書館に利用者の希望によって画像を配信する事業が始まりました。これらは古い資料も提供したい図書館職員や、読みたい利用者にとって可能性を大きく広げることでした。図書館配信が始まって4年、今、その利用実績はどう増えているのでしょうか。配信登録館はどういう状況でしょうか。

講座は、利用者の配信希望を取り次ぐ市町村図書館の立場からの質疑や要望をやり取りできる機会になればいいと考えています。

また、今後、蔵書のデジタル化は何年前頃まで積み上げられてくる見通しでしょうか。デジタル化資料は、公共図書館自身の資料保存の必要性を減らせるものになるでしょうか。一緒に考えたいと思います。

## 第27回多摩デポ講座報告 「私の図書館での仕事、 そして多摩六都連携」



11月14日(月)午後6時30分から立川市女性総合センターアームでタイトルのような講座を開きました。「多摩六都」を形成する5市のうち、伊藤高博館長(清瀬市)、岡野知子館長(東久留米市)、田中香代子館長(東村山市)、奈良登喜江館長(西東京市)のベテラン4館長が3月で定年となることから、湯澤瑞彦館長(小平市)を司会に。パネルディスカッション形式で語っていただいたのです。5館長の発言は率直で鋭く、約90人が参加され、熱気あふれる会でした。

「多摩六都」連携の発足から現状まで。図書館員としての経験、館長として取り組んだこと、後輩へのメッセージなどを語ってもらいました。5市の館長の日頃からの信頼感が強く感じられました。今後、この「多摩地域の図書館行政を担う図書館員に聞く」という企画は続ける予定です。

## パネルディスカッション で先輩達の発言を聞いて

山崎明子（会員）

多摩デポ通信に挟まっていた講座の案内を開催前日にふと見て、図書館でお世話になっていた方々の“退職”の文字に一瞬呆然とし、これはぜひともお話を聞いておかなければと思いついて参加しました。

現在はどこの自治体でも当たり前になっていて相互利用に昭和50年代から少しずつ取り組み、平成3年に多摩六都の広域連携が始まったことを、隣のエリアの図書館職員として驚きと関心を持って聞きました。しかも共通利用カードができ、業務レベルでの連絡会や合同研修など、様々な部分で市を超えた連携を進めているとのこと。図書館はネットワークであり、相互の連携無くしては利用者の要望に十分に応え

ることはできません。また他市の図書館の情報を知ることや顔の見える関係を築くことは、仕事をしていく上でとても重要なことです。先輩に連れられ少しずつ他市の図書館の方と知り合える場に参加し、図書館職員としての情報収集と仲間づくりに取り組んでいた者としては、市と市の関係の密度の濃さが羨ましくもありました。そんな北多摩の図書館が歩んできた道を、当時の職員として苦労し支えてきた方々に直接聞いたのは、これからのさらなる図書館連携を模索していく上で貴重であったと思います。

館長になられてからの図書館のトップとして心掛けていることや時々の苦労話は、それぞれの方の思いがこもった言葉であり、後に続く職員への期待やこれからの図書館に求める願いであるのだと受け止めました。

清瀬市の伊藤館長の現場



を常に自身の手で守ってきたいという気概や、職員希望を大切にして働き甲斐を見出させたいという気持ち、日本一といわれた図書館システムにかけた情熱は、トップとしての思いが詰まっていると感じました。

東久留米市の岡野館長の「チャンスがあれば何でもやるう」という思いや、常に外からの評価を意識して図

書館の価値を理解してもらうことに注いだエネルギーは、まさに「闘ってきた」という言葉に表れていると思いました。そして市民が自ら考え決めていけることに対する情報提供こそが図書館のスタンスであり、社会が多様であることや一人ひとりの人が力をつけていくためにも図書館は幅広く選書をしていくことが大切であり、そこに図書館が存在している意義があることが伝わってきました。

東村山市の田中館長のお話は、多くの利用を目指しつつも少数派の視点を常に持ち「公共」であることを大事にしてきた考え方や、図書費予算の厳しい閉塞感の中であつても、本と人を繋ぎ、人と人を繋ぎ、地域との繋がりを深めてコーディネートしていくことこそが図書館の使命ではないかという思いが溢れていました。

西東京市の奈良館長が話

されたことはまさに現場の管理職としての責務と受け止めました。図書館職員が細かなサービスマンや様々なチャレンジを考え進めていくけるように環境を整えていくこと、図書館の要は「資料」であるとしてそのための予算を獲得し、司書資格のある職員を採用し、ハンコを押す立場として責任を取る、その内に秘める覚悟を感じさせられました。

小平市の湯澤館長の自分が職員でいた時に感じた何でもすることができると幸福感を、今度は自分が職員に感じてもらえるように後ろ盾になって後押しし、職員の発想や企画にチャレンジする力や研修に行くエネルギーに期待を寄せている思いを感じました。

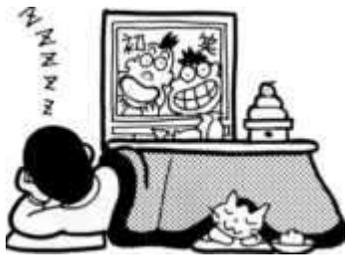
当日は、部屋も満杯で、補助の椅子をたくさん出すぐらいの大盛況でした。こんなに若い職員の方が大勢参加してくれたことはとても嬉

しいことです。多摩の図書館の次代を担う若い職員へのアドバイスとして館長方から出たお話は、「健康で日々のためまめ積み重ね」「顔の見える関係づくり」と、本の力と人の成長を信じる」「社会の動きや役所の仕事をキャッチし自分で考える」「両手でしっかりと図書館の仕事を握る」「図書館の知り合いを増やし多摩の図書館の横の繋がりを深める」などでしたが、それぞれの参加者が胸に刻む何かを持って帰ってくれたのではないかと思いません。最後の質疑応答でも活発な意見交換がされ、とても有意義な講座でした。

図書館から公民館に異動し三年が経ち、久しぶりに図書館の方々と会うことができ、嬉しく楽しい時間を過ごすことができました。格好いい憧れの先輩方の図書館にかけた熱き思いをたっぷりと聴くことができ、しっかりと受け止め、次の世代に引き継

いでいかなければいけないと思っています。これからの多摩の図書館に、若い職員の方々に期待しています。  
(国分寺市立本多公民館長)

この「多摩デポ講座」については、『出版ニュース』12月中旬号に手嶋孝典理事が「北多摩地域の図書館長の証言」という報告を書きました。今後発行される『みんなの図書館』3月号の「各地のたより」には、堀渡事務局長が長い報告を書きました。



カーリルとの共同研究報告

その9

## 第1回TAMALAS 説明会の開催

多摩デポでは、(株)カーリルとの共同研究をとおして多摩地域の蔵書を瞬時に横断検索できるシステム「TAMALAS (タマラス)」をホームページ上に公開しています。このシステムによって、各館で除籍しようとする資料が多摩地域である図書館に残っている資料なのかを瞬時に検索できるようになっています。

このTAMALASの目的や活用方法を多摩地域の図書館職員の方に説明し、広く活用してもらうための地域説明会の第一回を多摩北部都市広域行政圏(小平・清瀬・西東京・東村山・東久留米)の図書館を対象に行いました。

昨年12月8日(木)午後1時から小平市図書館を会場

に、5市から20名の職員の方に集まっていただいて開催しました。

まずカーリルの吉本龍司氏からTAMALASの開発の経過や意義を話し、次に実際にTAMALASを使ってもらいながら、その特徴や活用方法について説明しました。

前号の報告(その8)で紹介した新たな機能についても見てもらいましたが、参加された皆さんは何と云ってもその検索スピードに感心されている様子でした。参加した図書館の中には、既にTAMALASを活用しているという館もあり、この日の具体的なデモをおして新たな活用方法を発見されたと言われる図書館もありました。

TAMALASを公開したことによって都立図書館の統合検索の結果が比較検討できるようになりました。これは現状の横断検索システム

(複数の図書館の所蔵状況を横断的に検索するシステム)というものが完ぺきではないことを改めて認識する機会にもなりました。それによつて(TAMARASも含め)、検索精度を高める努力の必要性や、少なくとも検索結果が安全な方向に倒れる(多摩地域で最後の一冊を誤って廃棄しないような結果になる)ようにする必要性があることを再認識する機会にもなりました。

また今回の説明会の中では、現在公開をしている個別検索メニューのことでなく、西東京市で別途行った大量の除籍予定資料の一括検索処理の方法も説明し、それについての意見や要望を聞くこともできました。今後は現段階での検索マニュアルを整備すること、そしてなるべく早く別の地域で第二回説明会を開く必要があることを実感した説明会でした。

TAMALASの  
地域説明会の開催を  
希望する図書館  
募集中!

多摩デポの社員と  
(株)カーリルの  
開発者が説明に出向きます  
使い方のノウハウや  
アドバイスを行います

北多摩地域と同じように、  
近隣の幾つかの図書館が  
合同で参加できるような単位が  
望ましいですが、図書館の方、  
TAMALASを使ってみながら、  
まずはご相談ください。

多摩デポ顧問の書いた本

『読書と日本人』

津野海太郎著

岩波書店(岩波新書)

日本人はどのような本を  
読んできたのか、読書のスタ  
イルはどのようなものだった  
のか、本というものの性格、  
読む人の広がり、私たちの気  
楽な個人の黙読の自由読書  
はその中でどう特殊で、そし  
てもしかしたら(読書の黄金  
時代)は過ぎゆくところなの  
かもしれない……と。

刺激的、疑問な提起も含ん  
で津野さんが語ります。

(2016年10月刊)



平成28年度 東京都多摩  
地域公立図書館大会

主催：東京都市町村立

図書館長協議会

テーマ

『魅力ある図書館を  
めざして地域活性化と  
くらしの中の図書館』

日程

2月1日(水)／2日(木)

会場

立川市女性総合センター

アイム1階ホール

(立川駅北口徒歩7分)

：インターネットが発達した今だからこそ、施設と資料と人材をうまく活用すれば、逆に図書館の存在意義が今より増していくのではないかと。図書館職員が、地域に出て行き、様々な課題について資料を提供することにより、問題解決と地域活性化へとつなげていくことを具体的な事例などから学んでいきたい。(大会開催要項から)

2月1日

10時～16時30分

・第1分科会

『地域に活力を生み出す  
図書館について考える』

講師：大串夏身氏

(昭和女子大学名誉教授)

・第2分科会

『地域の情報基盤としての  
公共図書館』

講師：根本彰氏

(慶應義塾大学教授)

2月2日

10時～12時

・第3分科会

『障害者差別解消法と  
図書館のサービス』

講師：佐藤聖一氏

(埼玉県立久喜図書館障害

者サービス担当司書主幹)

図書館職員の研鑽及び交流の場、市民との共同研究の場として毎年開催されている大会です。誰でも参加できます。参加希望の方は当日会場において下さい。

「よみうりたま手箱」

コラム新作を同封

『読売新聞』多摩版の「よみうりたま手箱」という、いくつかの文化団体が交替で寄稿する欄に図書館にまつわるコラムを月に一回程度書いています。立川支局が編集する版ですが、多摩地域内でも配布されているエリアは限られるようです。

会員には『多摩デポ通信』前号以降に掲載された分を同封しました。

▼11月30日(水)

「学校司書 さらなる配置を」

(蓑田明子)

※12月は休載しました。次回は2/1(水)か次週に載る予定です。

★会の現勢

2017年

1月25日現在

●会員

(個人会員92名)

(団体会員3団体)

●賛助会員

(個人41名)

(団体1団体)

会の活動はみなさまの会費ご寄付により支えられています。今年度の会費がまだの方には振込票を同封しました。納入をよろしくお願いします。

●年会費

正会員(個人・団体)

五千元

賛助会員一口二千円

(個人一口団体五口以上)